

街路樹

「深い学び」の事例について



安心して自分らしさを生かせる居場所づくりを

国語の授業で登場人物について話し合う場面です。
 児童A「僕は、主人公の素直なところが好きです。」
 児童B「僕は、この作者のことがもっと知りたいです。」
 児童C「私は、主人公の友だちはきっと悲しかったのだと思います。」...

教師「え、え、それで終わり？ もっと深く話し合わないの？」
 なぜこの授業は「深い学び」につながらなかったのでしょうか。

専門研修「授業力向上講座Ⅲ」のある授業場面では、グループで話し合わせる前に、一人ひとりに「一番印象に残ったところはどこか」を考えさせ、その後、グループごとに「一番大事だと思うところはどこか」を話し合わせました。自分たちの考えから一つを選択させ、「どの考えにするのか」を話し合うプロセスの中で、子どもは必然的にその理由を話すことになります。その必然性が、他者の考えと関わり合いながら深い学びへとつながるポイントとなりました。話し合いの視点を明確にし、学習課題を解決させるためにどのような学び合いを設定していくかが重要であると実感した授業でした。「対話的な学びから、深い学びへどうつなげるか」の鍵は、教師のしかけとともに、子どもたちの発言をコーディネートしながら導いていくことにもありそうです。授業後の講義の中で、「一人で読んだときには気づかないことを教室の中で共有する。そして、『そうか、こんな風にも読めるのか』と自分たちで気づくから楽しい」ということを聞き、教師の目的意識が深い学びへとつながるのだと思いました。それぞれの教科において、どのように「深い学び」へとつなげていくか、今後も研修を通して学んでいきましょう。

【参考文献「アクティブ・ラーニング『深い学び』実践の手引き」
 田中 博之 著（教育開発研究所）】

「学校は楽しい。」面談の中で子どもたちのその言葉を聞くと救われた気持ちになります。

子どもは周囲の人の関わり方如何によって問題行動が多くなったり、少なくなったりします。

毎日の学校生活の中で一人ひとりの特性を見極め、生活面や学習面でのかみ細かな配慮をしてくださっている先生方の努力に頭が下がります。保護者との話からもそれが家庭との信頼関係に繋がっていると感じます。

絵本「ぼくのニセモノをつくるには」では、小学生のけんたが、ロボットに身代わりを頼むために、「自分とは何か？」を考え始めます。その中で、おばあちゃんは言います。

「人間は、一人ひとり形のちがう木のようなもの。木の種類は生まれつきだから選べないけど、それをどうやって育てて飾り付けするかは自分で決められる。木の大きさとかではなく、自分の木を気に入っているかどうかが一番大事。」

いじめ、不登校など、困難な状況を抱え、自分の居場所を求めている子どもたくさんいます。どの子も安心して自分の持ち味を発揮し、将来への期待に夢を膨らませながら「自分の木」を育てていけるような居場所を持って欲しいと願っています。その状況や環境を整えてあげるのが子どもたちの成長を見守る私たち大人の大きな役目ではないかと思えます。

【「ぼくのニセモノをつくるには」
 ヨシタケ シンスケ著（ブロンズ新社）】



教育相談部

調査研究委員会「教師力upの素」（教育実践研究発表大会の発表から）

1月13日（土）に「いわき市総合教育センター教育実践研究発表大会」を開催しました。文部科学省 石田有記 専門官による新学習指導要領についての講演、県教職員研究論文の入賞論文発表、各研究団体の発表及び展示発表等、明日からの授業実践に役に立つ様々な発表がありました。その中から「調査研究委員会」について紹介します。

調査研究委員会の目的は「日々の授業改善や生徒指導、特別支援教育の充実を図る」こと、今年度の取組としては「市内の優れた授業や実践をもとに指導の在り方をまとめ、日常の授業に役立つ資料を作成する」ことであります。

○教科部会（国語科・社会科・算数/数学科・理科・英語科） ○生徒指導部会 ○特別支援教育部会の7部会に分かれ、2年間にわたって調査研究を進めています。

今回は「よりよい授業づくりのための『授業改善』」と、「生徒指導の機能を生かした『学級開き』」について研究を進めました。教科部会では、市内の優れた実践をされている先生の授業を動画として記録し、『教師力upの素』として、授業動画の一部分及び授業の解説資料を当センターホームページに掲載しました。発表会ではホームページを先行公開しましたが、「校内で是非活用したい」という感想が多く聞かれました。

2月までの調査研究をまとめたホームページは、30年4月に公開する予定です。

なお、4階教育図書資料室には、調査研究委員会が撮影した授業（1単位時間分）が所蔵しており、視聴することができます。校内研修で活用する場合には、貸出も可能です。

市内の優れた授業実践を、是非、各校での研修にご活用ください。

調査研究委員会

▼総合教育センターTOP

▶平成20・21年度

▶平成22・23年度

▶平成24・25年度

▶平成26・27年度

▶平成28・29年度

クリック！